

児童・生徒が中心となってデザインした 新たな制服の導入

時代を担う人材を輩出する附属学校の魅力を、目に見える形で表現するため、附属小学校、中学校及び特別支援学校小学部の制服を一新します。

児童生徒の代表者が中心となって「伝統と未来」をコンセプトに考えた新たなデザインの制服を、令和9年度から導入します。



交通アクセス

■附属幼稚園

<路線バス>

- J R前橋駅よりバス6分
- ・荻窪公園行き「附属小前」下車 徒歩2分
 - ・嶺公園行き「附属小前」下車 徒歩2分
 - ・小坂子行き「附属小前」下車 徒歩2分
 - ・富士見温泉行き「附属小前」下車 徒歩2分

<徒歩>

- ・中央前橋駅から徒歩 16分

■附属小学校・附属特別支援学校

<路線バス>

- J R前橋駅よりバス6分
- ・荻窪公園行き「附属小前」下車 徒歩1分
 - ・嶺公園行き「附属小前」下車 徒歩1分
 - ・小坂子行き「附属小前」下車 徒歩1分
 - ・富士見温泉行き「附属小前」下車 徒歩1分

<徒歩>

- ・中央前橋駅から徒歩 16分

■附属中学校

<路線バス>

- J R前橋駅より
- ・富士見温泉行き「北代田バス停」下車 徒歩 15分
 - ・嶺公園行き「県営住宅前バス停」下車 徒歩 10分
 - ・小坂子・荻窪公園行き「上沖入口バス停」下車 徒歩 15分



お問合せ

■群馬大学共同教育学部附属幼稚園

〒371-0032 群馬県前橋市若宮町二丁目5番3号 TEL.027-231-3170 FAX.027-231-3163
<https://kg.edu.gunma-u.ac.jp/>

■群馬大学共同教育学部附属小学校

〒371-0032 群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号 TEL.027-231-5725 FAX.027-231-2828
<https://es.edu.gunma-u.ac.jp/c20200065>

■群馬大学共同教育学部附属中学校

〒371-0052 群馬県前橋市上沖町 612 番地 TEL.027-231-4651 FAX.027-231-3164
<https://jhs.edu.gunma-u.ac.jp/>

■群馬大学共同教育学部附属特別支援学校

〒371-0032 群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号 TEL.027-231-1384 FAX.027-234-4852
<https://shc.edu.gunma-u.ac.jp/>

自ら人生を描き 共に未来を創る

附属四校園では、よりよい未来の実現に向けて自己決定や自己調整を繰り返しながら行動し、他者との協働を通して様々な価値観に触れ、楽しさや達成感を感じてほしいという共通の願いを込め、上記の目指す学び手像を設定し、一貫性のある教育を展開しています。



国立大学法人 群馬大学共同教育学部

附属学校園祭2026

■附属幼稚園 ■附属小学校 ■附属中学校 ■附属特別支援学校



附属学校部長 あいさつ



附属学校部長
上原 永次

群馬大学附属学校園として、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校が設置されています。

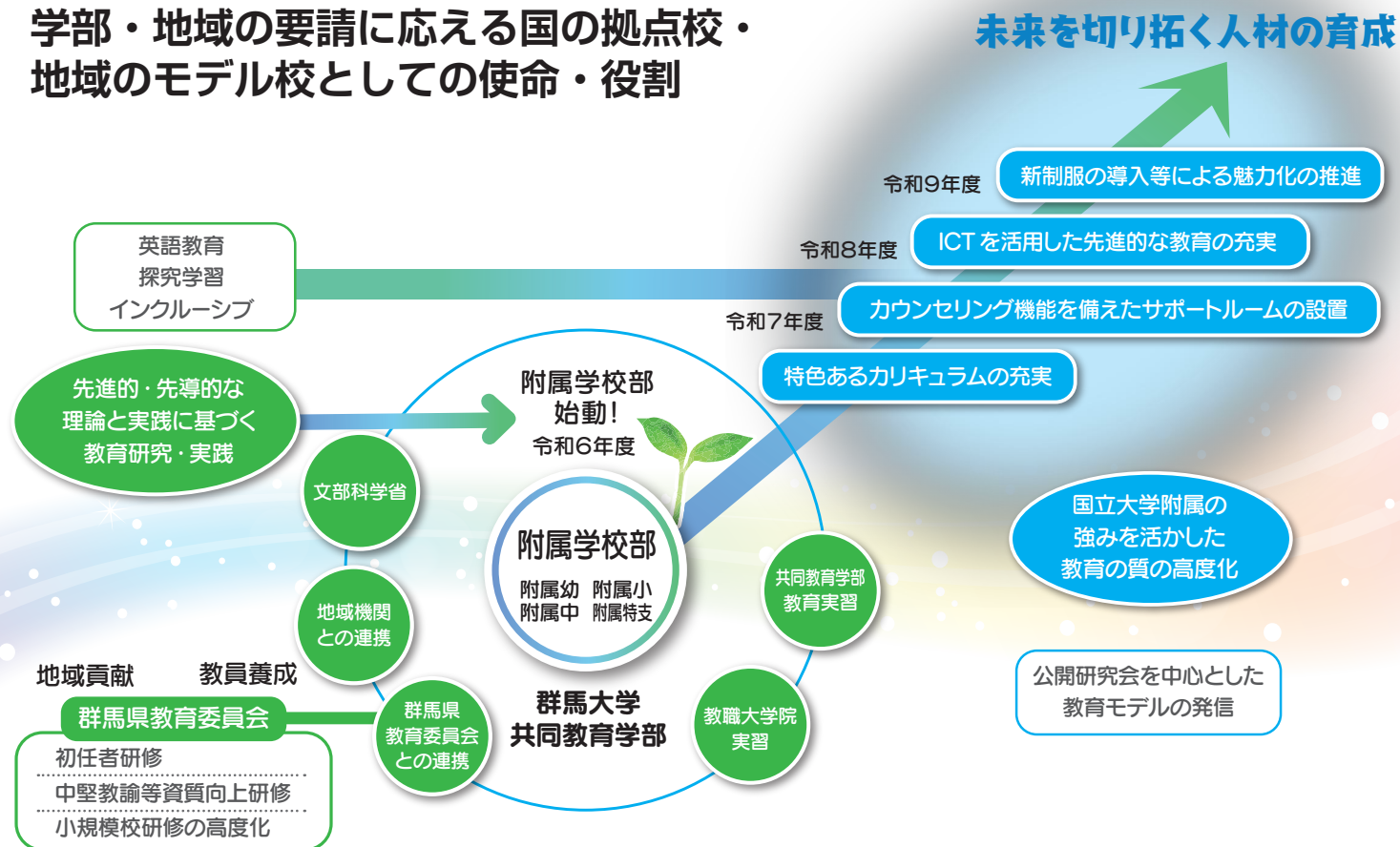
群馬大学は、2023年に本学の起源である「小学校教員伝習所」から150年を迎えました。1875年(明治8年)に、附属小学校の前身となる教員伝習所が創立され、附属学校園には長い歴史と伝統が培われてきました。

2024年(令和6年)から2025年(令和7年)に各附属学校園長職を県教育委員会との人事交流等による常勤とする体制としました。そして、附属学校部の設置により、4つの歴史ある学校園が群馬大学共同教育学部と一体となり、未来を担う園児・児童・生徒の成長と学びを支援するために新たなスタートを切りました。

附属学校園は、未来を創る人材を育成する国の拠点校、地域のモデル校としてその役割を果たしていくことを目指しています。そのため、附属学校部として「教育実習・教職大学院実習」「学部と附属の教育研究の連携」「群馬県教育委員会と連携した教員の力量形成につながる各種研修」などに取り組んでいます。さらに、4校園の教育活動の質の向上を目指し、「英語の一貫教育の充実」「9年間を見通したICT教育を活用した先進的な教育」「12年間で貫く非認知能力育成教育・探究的学習の先導的な実践」などに積極的・先導的に取り組み、確実に国立大学附属ならではの教育を提供していきます。

皆様には附属学校部へのご理解をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学部・地域の要請に応える国の拠点校・地域のモデル校としての使命・役割



遊びから、未来創造へ！ つながり 広がる 探究的な学び！

実現したい未来へ

「未来創造科」の活動を通して、未来に向かって探究活動を深化、発展します

小学校から中学校へ

エージェンシーを発揮し、現代的な諸課題の解決に向けて、より高度で具体的なテーマを探究する活動へと深化させます

中学校での実践的なテーマ例：地域活性化

リトリート×サイクルツーリズムで新しい観光の“かたち”を
～「しまボタ」で温泉地の活性化を目指す～

特別支援学校

交流及び共同学習
附属小・中と日常的に交流し、計画的に授業を行います

小学校での実践的なテーマ例：

～咲かせてニコニコ! わたしたち幸せ居る笑学生～
～これが前橋の魅力! ふるさと再発見プロジェクト～

幼稚園から小学校へ

スムーズな接続を目指したスタートカリキュラムを実施し、遊びの経験を「生活科」や「みらいプロジェクト」を軸に発展します

幼稚園での遊びの経験が、小学校でのより体系的な学習活動へと発展します

幼稚園・学びの土台づくり

遊びは探究学習の「原動力」
学びや物事を深く理解する力になります

学びの原点は「自発的な遊び」

子どもが自ら興味をもって主体的に動くことが、探究の出発点になります

附属四校園におけるインクルーシブ教育の推進

一人一人が互いの多様な個性を尊重し合い、多様な在り方を認め合いながら共に学んでいくことができるよう、附属四校園での交流及び共同学習を充実させ、将来の共生社会を形成する人材の育成を目指しています。

これまでの附属特別支援学校と附属小学校の交流及び共同学習に加え、令和8年度からは附属幼稚園、附属中学校でも、附属特別支援学校との交流及び共同学習を推進していきます。四校園が隣接する立地を活かし、共に学ぶ経験を幼少期から継続的に積み重ねていきます。

12年間で育む英語教育！

【中学校】使いこなす

目的・場面・状況に応じて情報や考えを工夫して伝える
海外とのオンライン交流も!

【小学校】楽しむ

自分のことや日常生活について自分の考えや気持ちを伝えあう

【幼稚園】ふれる

附属小ALTと手遊びやゲームで英語に親しむ



写真：おもちゃづくり(左)や音楽の授業(右)を通じた交流及び共同学習

附属幼稚園



教育目標

健康でいきいきした子どもに育てる —「結果」ではなく、教育目標に向かっていく「過程」を大切にします—

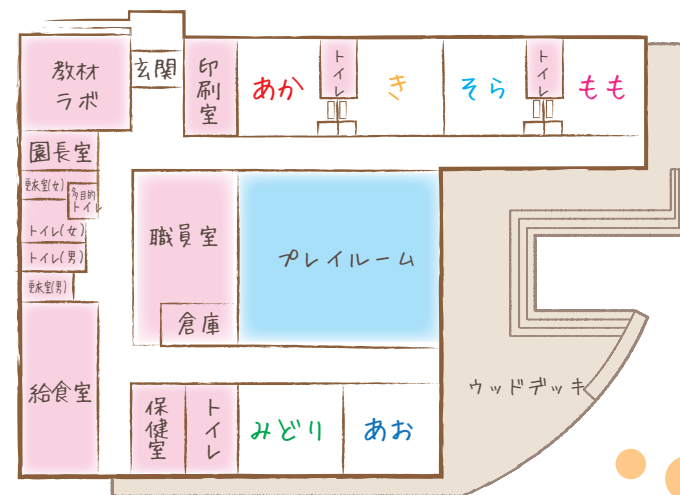
身近な環境に興味や関心をもち、自ら関わっていく子どもに育てる

豊かに感じとり、考えたり表現したりする子どもに育てる

友達に関心や親しみの気持ちをもち、友達と楽しく遊ぶ子どもに育てる



園舎平面図



教育時間

年齢	月曜日～金曜日	備考
3歳児 (桃・空)	8:40～13:40	4月中は午前降園(11:20) 行事等により午前降園の日もある
4歳児 (黄・赤)	8:40～13:50	行事等により午前降園の日もある
5歳児 (青・緑)	8:40～14:00	

本園では、教育時間終了後の教育活動として、教育時間終了後から最長 16:30 までの間、預かり保育を行っています。

プレイルームを中心に保育室が配置されています。オープンスペースで回遊性のある作りになっているため、様々な遊びが見渡せ、異学年の交流も自然と生まれる環境になっています。

年間行事

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学期始業式・入園式 希望個人面談 PTA総会	遠足 保育参観 あずさの日 幼稚園説明会	PTA親子で遊ぶ日 附属中交流 個人面談 保育参加 PTA総会	あずさの日 1学期終業式 夏季休業	夏季休業	2学期始業式	遠足 家族運動会	もちつき やきいも 保育参観 公開研究会	2学期終業式 クリスマスコンサート	3学期始業式 冬季休業 劇を見る日	新入園児保護者説明会 まめまき	3学期終業式 修了式

毎月：安全点検、避難練習、発育測定等
随時：あずさの日(幼稚園体験)、園庭開放等

子ども一人一人の思いを大切に、“やりたい遊び”がそこにある

本園の特色 ①

子ども主体の遊びを中心とした保育

— 子どものやりたい遊びを通し、「後伸びする力」を育てます —

大人から与えられた遊びではなく、子どもが自分のやりたい遊びを見つけ、その遊びに夢中になってのめり込んでいく過程、そこにはたくさんの学びがあります。

例えば、やりたいことを実現するため、問題に直面しても試行錯誤したり、友達と一緒に協力したりして、物事に粘り強く取り組むようになっていきます。また、その遊びに飽きてきたり、嫌になったり、疲れたりしたとき、友達の応援や保育者の適切な援助により、「もう少しだけやってみよう」「あと少し頑張ろう」など自分の気持ちを調整できるようになっていきます。

本園では、子どもの「やりたい」を実現するため、幼児一人一人の行動理解と予想に基づいた遊びの環境を作り、幼児の体験や学びを豊かにする保育を展開しています。

【本園の幼児に育みたい力】

主体性
健康な心と体
人と関わる力
道徳性の基礎
言葉や数量に対する感覚
思考力の芽生え
豊かな感性、表現力の芽生え
やり遂げる力
自分への信頼・自信
基本的な生活習慣

生涯にわたる人格形成の根っことなる最も重要な部分を培い“小学校以降の教育の土台となる力”を育みます

幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ(文部科学省)

- ・ 幼児教育は何のため？
- ・ 「遊びは学び」ってどういうこと？
- ・ 「学びの芽」を育む園の工夫って？(多様な遊び編)
- ・ 「学びの芽」を育む園の工夫って？(どろだんご遊び編)

動画は、こちらの二次元コードからご視聴いただけます



本園の特色 ②

家庭と園が手を携えた保育および子育て支援

— 幼児期の子どもの理解を深め、家庭と園が協力して子どもを育みます —

保育参加

お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんが、先生として一日子どもと一緒に過ごし、幼児期の子どもを理解を深めます。その経験が、その後、ご家庭でお子様に関わる際のヒントとなることを願っています。

預かり保育 (にじぎっず)

就労や就学、家庭の都合等、保護者のニーズに応え、通常の教育時間終了後から最長16:30までの間、お子様の健やかな成長を促すための保育を行い、子育てを応援しています。

保育サポーター

七夕飾り作り、花の苗植え、プール水遊びの見守り、遠足の引率など、保護者の方々による様々なサポートを受け、より充実した安心安全な保育を行っています。





附属小学校



学校教育目標

つよく・ただしく・かしこく

目指す子ども像

つよく

- 目標をもって粘り強く取り組み、失敗しても挑戦する子ども
- 心身共に元気でたくましい子ども

ただしく

- 笑顔で生活し、相手の思いや考えを大切にする子ども
- 進んで挨拶をし、ルールやマナーを守って行動する子ども

かしこく

- 主体的に学習に取り組み、新たな価値を創り出す子ども
- 様々な課題の解決に向けて、友達と共に追究する子ども

附属小の「あいうえお」

附属小学校で子どもたちも教員も大切にしている合言葉です。
毎月設定される生活目標は、この「あいうえお」を基にして子どもたちがつくります。この5つを大切にすることで、楽しく明るい附属小学校にすることができます。

今年度は、「あ」のあいさつに力を入れて活動しています。誰に対しても、自分から目を見てあいさつをすることで、相手も自分もよい気持ちになるように頑張っています。

附属小の「あいうえお」

「あ」 すすんで あいさつ

「い」 いじめ ゼロ

「う」 そとで うんどう

「え」 えがおで せいかつ

「お」 おもいやりの ころろ

附属小イメージキャラクター
くすのきーな

年間行事

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学期始業式 1年生を迎える会	リレー大会 学習参観日 火災避難訓練	公開研究会 学年自由参観日	1学期終業式 個人面談 赤城林間学校(5年)		教育実習 運動会 2学期始業式 地震避難訓練	1年 赤城オリエンテーリング 2年 榛名湖畔オリエンテーリング 3年 碓氷峠オリエンテーリング 4年 たくみの里オリエンテーリング	修学旅行(6年) 不審者対応避難訓練 芸術鑑賞教室 自由参観日・引き渡し訓練	2学期終業式 個人面談	3学期始業式 長なわ大会	附属中学校体験入学(6年) 感謝の集い・学習発表会	修了式・退任式 卒業式 6年生を送る会

3つの特色ある教育方針と多様な交流活動

本校では、3つの特色ある教育方針を中心に据え、様々な教育活動を行っています。また、附属三校園との交流を中心とした多様な交流活動も行っています。

①非認知能力の育成

各教科等では、知識・技能などの認知能力とともに、「粘り強さ」「目標への情熱」「他者との協働」「自信」などの非認知能力を、一体的に育成する教育を行っています。また、学校行事などの学校教育全体を通じて、非認知能力を育てていきます。運動会の全校への挨拶を子どもたちが行ったり、新しい制服を自分たちで選んだりするなど、主体的な取組が見られています。



②子どもの思いに寄り添った学習

入学当初には、「スタートカリキュラム」が行われ、子どもたちの幼児期の学びの芽生えを大事にし、児童期の自覚的な学びへとつなげていきます。また、低学年では、生活科を中心として他教科等との関連を大切に、自分の思いや願いを実現していく学びをしています。中・高学年では、総合的な学習の時間である「みらいプロジェクト」を軸として、子どもが自ら課題を見だし、よりよく解決することを通して、自己の生き方を考える学習を行っています。



③体験を重視した学習

たくさんの現場学習などを実施して、実際に見たり聞いたりして体験することを重視し、実感を伴った理解を促します。町探検・地域の方を講師とした昔遊び体験・野菜作り・動物との触れ合い・きゅうり農家見学・清掃工場見学・前橋市内散策など様々な体験活動を行っています。



町探検 (生活科)



人形劇体験 (みらいプロジェクト)



浄水場見学 (社会科)



前橋市のよさ再発見 (みらいプロジェクト)

多様な交流活動

本校では、附属三校園、群馬大学との交流活動を積極的に行っています。子どもたちは、様々な交流活動を通して、自分の学習への取り組み方や自分の生き方を振り返り、今後の学習に活かしていきます。



附属幼稚園との交流



附属中学校との部活動交流



附属特別支援学校との交流



群大留学生との交流



附属中学校



学校教育目標

共生
創造
健康

心豊かに互いを生かす
知性を高め未来を創る
たくましく心と体を育ち合う



必ず見つかる 新しい自分 素敵な仲間 輝く未来

群馬県はもとより、日本・国際社会で活躍する人材を多数輩出し、県教育界の発展に貢献するとともに、教員養成学部附属学校として、未来を担う多くの教師を育成しています。確かな学力を育む授業に加え、探究力を高める未来創造科、生徒主体の学友会活動、体育大会や文化祭などの学校行事、部活動を通して、熱く語り合い、学びを深め、生涯の友と友情を育む学校です。学友と感情を豊かに交流し、感動を分かち合いながら、志高い仲間と夢に向かって充実した学校生活を目指します。



実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成

「今、求められている教育」として、本校ではこれまでの研究成果に加え、OECDラーニング・コンパス2030や群馬県教育ビジョン、生徒の実態を踏まえ、令和6年度より研究主題を「実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成」と設定しました。各教科等において、生徒が自ら課題を設定し、興味・関心に応じて学習活動を選択しながら、問題解決的に探究する実践研究を進めています。



生徒自ら運営する学友会活動

学友会の会員は、本校に在学する生徒全員です。会員の自主的活動により、学校生活の向上を図り、教養を高めることを目的に運営されています。特に附中三大行事(体育大会、球技大会、合唱コンクール)は生徒が自主的に企画・運営し、生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験し、生涯の楽しい思い出を作ることができます。



【考える。工夫する。だから、強い。附中の部活】

短い活動時間でも、学友同士で知恵を出し合い、自主的に練習を創り上げる。それが、附属中学校の部活動です。

<主な実績>

- ・音楽部 | 全日本合唱コンクール全国大会 金賞
- ・水泳部 | 群馬県総合体育大会 団体優勝
- ・卓球部 | 群馬県新人卓球大会 女子団体準優勝



未来創造科:生徒が主役の探究学習

未来創造科では現代的な諸課題について自分でテーマを設定し、各教科等の学びを活かしながら進めていきます。

●未来に向かって探究する時間

予測困難なこれからの時代を生き抜く力を身に付けるため、仲間や先生、企業の方や地方公共団体などの方たちと協働することを通して、次から次へと新たなアイデアや、やってみたいことが生み出されます。

●自ら問い、行動する未来創造 Day

未来創造Dayは、生徒が自分の探究を計画・実践するための特別な時間です。調査やインタビュー、話し合いなどに活用し、まとまった時間の中で「何をするか」を自分で決めながら学びを深めています。



●各教科等の学びを生かせることを実感

各教科等の学びを活用したり関連づけたりすることで、学びが深まったり、活用できることを実感できたりすることができます。

●未来創造科シンポジウム

よりよい未来を創るために考えたことを、全校生徒と保護者の方などに提案をします。未来を切り拓き、持続可能な社会の実現について探究の成果を発表します。

探究テーマ例「リトリート×サイクルツーリズムで新しい観光の“かたち”を～『しまボタ』で温泉地の活性化を目指す～」
「認知症予防とだるまを組み合わせたワークショップを行おう」

4つの相談室で思春期の心をサポート

スクールカウンセラー・相談員が毎日サポート

生徒も保護者も、どなたでも相談いただけます。「ちょっと聞いてほしいな」「誰かに話してみたいな」と思ったときに、気軽に利用できる場所です。



国際交流:海外の先生・学生との英語交流

日ごろ高めている英語力を発揮。世界に視野を広げる貴重な機会を提供します。



ICT × AI で、一人一人の学びを支える

【ICTで一人一人の学びをサポート】

考えが見えるから、話し合える。
話し合えるから、学びが深まる。
ICTは、一人一人の学びを深める土台です。



【AIで支える“思考のプロセス”】

AIを“答えを与える存在”として使うのではなく、生徒が自分の考えを深めたり、表現を豊かにしたりするための“学びのパートナー”として活用します。



年間行事

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新任式・始業式 入学式・新入生歓迎会	授業参観・避難訓練 赤城校外学習(1年)	校内弁論大会 修学旅行(3年)	壮行会 体育大会	東京校外学習(2年)	授業参観・進路講演会 情報・リテラシー教室・非行防止教室 学友討論会	球技大会 学校説明会 避難訓練 教育実習	始業式・教育実習 三者面談	球技大会 学校説明会 避難訓練 教育実習	始業式・校内書き初め展 附小6年生体験入学	始業式 学友討論会 避難訓練 送別会	修了式・退任式 卒業式

過去3年間の卒業生の主な進学実績

【県内国公立】

群馬工業高等専門学校
前橋高等学校
前橋女子高等学校
前橋南高等学校
前橋東高等学校
前橋商業高等学校
前橋工業高等学校
前橋清陵高等学校
勢多農林高等学校
市立前橋高等学校
高崎女子高等学校
高崎工業高等学校
高崎経済大学附属高等学校
桐生高等学校

【県外国公立】

国立筑波大学附属高等学校
国立山形中央高等学校
国立浦和第一女子高等学校
国立船橋高等学校
国立筑波大学附属高等学校
国立山形中央高等学校
国立浦和第一女子高等学校
国立船橋高等学校

【県内私立】

共愛学園高等学校
前橋育英高等学校
東京農業大学第二高等学校
高崎健康福祉大学高崎高等学校
高崎商科大学附属高等学校
桐生第一高等学校
明和県立高等学校
樹徳高等学校
新島学園高等学校
第一学院高等学校
NHK学園高等学校
N高等学校
クラーク記念国際高等学校
ルネサンス高等学校

【県外私立】

慶應義塾高等学校
慶應義塾女子高等学校
早稲田大学本庄高等学院
青山学院高等学校
中央大学附属高等学校
立教池袋高等学校
大宮開成高等学校
開成高等学校
秀明高等学校
本庄東高等学校
本庄第一高等学校
正智深谷高等学校

武蔵野大附属高等学校
桐朋女子高等学校
川崎医科大学附属高等学校
日本女子大附属高等学校
佼成学園高等学校
佐野日本大学高等学校
新潟明訓高等学校
鎌倉学園高等学校
山梨学院高等学校
大阪桐蔭高等学校
國學院大学栃木高等学校
開智高等学校
慶應義塾高等学校
FC今治高等学校山校



附属特別支援学校



学校教育目標

健康で、人と調和でき、自分から豊かな生活を築いていく能力を身に付け、よりよい自立と社会参加ができる児童生徒を育成する。

目指す児童生徒像

小学部 げんきで なかよく 自分から取り組もうとする児童

中学部 心身を鍛え お互いを助け合い 自分の生活をよりよくしていこうとする生徒

高等部 自ら体調を整え 仲間と余暇を楽しみ 意欲的に働こうとする生徒

「子どもがいて、学校がある」をモットーに

本校では、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に発揮し、将来、遭遇するであろうさまざまな場面において、自ら考えて行動し、生活を豊かにしていくことができるようになることを目指します。そのためには、どのような力が必要かを見極めつつ、将来につながる資質・能力を、日々の教育活動を通して、確実に身に付けていく必要があると考えており、本校の教育活動は次のことを大切にしています。

●小学部では

児童の興味・関心や経験を大切にし、一人一人の実態に基づく授業実践を行う中で、基本的生活習慣の確立と基礎学力の向上を目指しています。児童の行動や発言などから気持ちを捉え、自己決定による挑戦ができるよう支援することを大切にしています。



●中学部では

初等教育を通して培ってきた力の一層の向上と、後期中等教育への円滑な移行を図ることを重視しています。一人一人の教育的ニーズに基づく授業実践を行う中で、自立に向けて、主体的に学ぶことや人とのかかわる力を伸ばすことを大切にしています。



●高等部では

高等部は、自立・社会参加に向けた学校教育の最終段階として、中学部までの義務教育9年間で身に付けた力を、卒業後の生活に生かしていくための実的な力を高めることや、社会人としての生活をよりよくスタートできるような力を身に付けることができるように、地域資源の活用と移行支援の考えを大切にしています。



年間行事

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
個別面談、授業参観 前期始業式・入学式	第1回就業体験 生活指導集中週間	校内研究授業	学部別集会 ふとくさい	夏季休業	高3就業体験 中3組修学旅行	高3組修学旅行 後期始業式 前期終業式 個別面談 小3組修学旅行	ウオーキング・ジョギング大会 教育実習 公開研究会	学部別集会 学習発表会	第2回就業体験 生活指導集中週間	個別面談	卒業式 修了式 卒業を祝う会

自立や社会参加に確かにつながる授業を目指して

●自ら「考える姿」を大切にする

子どもが自ら考え、「分かった」「できた」という実感をもつことを大切にしています。子どもの思考に沿った学習活動を設定し、自ら考えて目の前の問題を解決できるようにしています。

●「人とのかかわり」を大切にする

子どもが、さまざまな場面や人とのかかわりの中で身に付けた力を発揮したり、新たな気づきを得たりすることを大切にしています。

●子どもの「過去」を生かす

子どもは日々、さまざまな学びを積み上げています。本校では、子どもの学びを詳細に記録し、蓄積しています。この記録を生かし、子どもに合った課題や学習活動を設定しています。

●子どもの「未来」を見据える

本校では、本人と保護者、教師が話し合い、願う「未来」の姿として「3年後の願う姿」を設定しています。授業での学びが、生活に生きる力になっているかを本人と保護者、教師とで確かめ合い、願う「未来」へ確実につなげていきます。

交流及び共同学習の充実

本校では、地域の方々や附属三校園、近隣校、他県の附属校、居住地校との交流及び共同学習を計画的・組織的に行いながら、児童生徒の経験を広げ、積極的な社会参加につなげることを目指しています。



附属小学校との交流



みずき中学校との交流



宇都宮大附特との交流



勢多農林高校との交流

●国立大学法人では唯一

全国の国立大学法人の附属特別支援学校では唯一、附属小学校と校舎や運動場を共有しています。

現在のインクルーシブ教育が叫ばれる前の開校当初から、附属小学校との交流は、日常的、計画的に行ってきています。

